

広報 妻籠宿



公益財団法人妻籠を愛する会

令和4年8月20日発行

No.143



(下り谷)

昨年下り谷でおきた土砂崩れ被害地が、7月に復旧し通れるようになりました。今まで災害による大きな被害をまぬかれてきた妻籠宿ですが、最近の温暖化による異常気象は、何が起きるかわからない状態となっています。

災害に対する備えを万全にすること、そして温暖化に対する意識をひとりひとりが高め、これ以上地球のバランスが崩れないように努力する時が来ています。

小笠原 美雪

特集 男埴分収育林

理事長 藤原 義則

広報 137 号から 139 号にて男埴山分収育林皆伐について連載報告してまいりましたが、本年6月22日木曽森林管理署南木曽支署から報告がありましたのでその報告をします。

令和3年度・4年度で6林班8.7 ha の分収育林が対象で皆伐の危機にありましたが、緑のオーナとの契約変更により対象の森はそのまま育林されることとなったことが報告されました。災害の起点となる恐れが危惧されたところでしたがひと安心です。

思えば令和3年1月13日の理事会での審議に始まり、その後3度の特別委員会の審議や理事会での検討を加えて3月18日に参与の伊藤寿子氏を紹介議員として町長、議会議長への請願書の提出と後藤代議士や林野庁への説明を行い、町長さん等の働きもあり今回の解決となりました。関係した方々に厚くお礼申し上げます。1年半に及ぶ長い時間を要しましたが、ひとまず安心です。

これも昭和61年の盗伐時に行った、住民の皆さんの対応力成果であったと思っています。「男埴山」は過去に幾度となく蛇抜けの起点となった風化花崗岩のマサ土の地質であり山としては弱い山です。今後とも注意を払いたいと思います。

昨年5月11日の現地検討会では、信州大学名誉教授の北原曜先生、長野県立歴史館の特別館長笹本正治さん(元信州大学副学長)からも、皆伐による風化花崗岩の「男埴山」の危険性について指摘も受けました。遠路ご参加いただきありがとうございました。

なお、6月22日の特別委員会をもって男埴特別委員会は解散しました。

*写真は清内路峠下の分収育林の皆伐状況です



〈2021.5月:分収育林現地視察〉

今年も妻籠城址環境整備が行われました!

(株)名工土木「安全の日」に由来する妻籠城址の環境整備が7月26日に行われ、登山道から山頂までの草刈りと登山道の水切りをしていただきました。堀切から二の郭までの登山道は急勾配であるので、大雨で道が荒れ、凸凹になり登るのに苦労するところですが、水はけがよくなり安心です。また、ふもとから本丸までの登山道は雑草が刈り払われススキ等をよけながらの登山は快適になりました。長く続くボランティア行事に感謝いたします。酷暑の中、感謝!感謝!です。

山頂での火まつりの行事は行われなくなり、狼煙あげの時しか山頂からの眺望を楽しむことはなくなりましたが、町による眺望確保の雑木伐り払いも行われ、妻籠宿～馬籠峠、三留野宿～上野原・十二兼、山口ダム～坂下方面と、素晴らしい眺望が360度楽しめれます。子どもの頃遊んだ城山です。環境整備に感謝しながら「おらが村の城山」へ登ってみてはいかがでしょうか?



妻籠を愛する会 新体制始動

今年度は理事の改選期にあたり、5月の定時評議員会におきまして役員改選を行いました。また、6月の理事会にて三役の選任も行われ、どちらも全員再任となりました。任期は令和6年の定時評議員会までとなります。なお、今回評議員は改選ではありませんので引き続き令和6年の定時評議員会までの任期となります。

委員会の構成に若干変更がありますので名簿を掲載します。

【理事会】

理事長：藤原義則

副理事長：新井新作

常務理事：横山 純

理事：今井啓文、松瀬博敏、松田智、今井好紀、
原信之、平田伊知郎、亀山和美、
宮下朋之、松下達也

【評議員会】

石垣八十志、下條廣一、木村和恵、勝野雅士、
中坊健吾、藤原啓喜、小笠原美雪、下枝正敏、
内藤米康、伊藤伸三、加藤洋子、藤原崇道、
鈴木義幸、藤原修司

【監事】

鈴木邦也、志水達也

・参与：伊藤寿子

・顧問：林茂、小林俊彦

【委員会構成】

※◎委員長、○副委員長

〈総務委員会〉

◎今井啓文、○今井好紀、

伊藤伸三、加藤洋子、松田智、内藤米康、
中坊健吾、藤原崇道

〈統制委員会〉

◎宮下朋之、○下條廣一、

松瀬博敏、石垣八十志、三浦良道、
新井新作、磯村琢弥

〈文化広報委員会〉

◎原信之、○松下達也、

木村和恵、小笠原美雪、勝野雅士、鈴木義幸

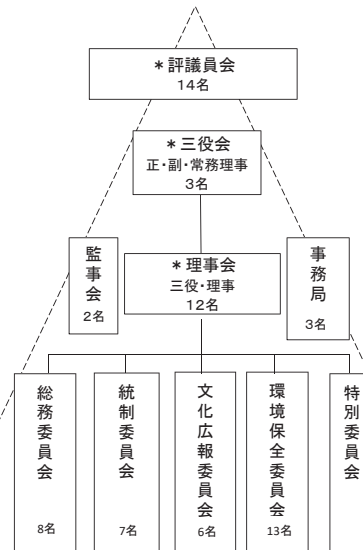
〈環境保全委員会〉

◎平田伊知郎、○郷原二三男、

藤原和年、亀山和美、下枝正敏、藤原啓喜、
藤原修司、原 修己、伊藤龍太、窪美 靖、
熊谷純一、原 拓也、吉村昌彦

(敬称略)

公益財団法人 妻籠を愛する会 機能組織図



定款 H25.4.1
妻籠を守る住民憲章 S46.7.25

● 条 例

- ・妻籠宿保存地区の建造物小規模修理に関する補助金交付要綱 S54.3.23
- ・南木曾町妻籠宿保存地区保存計画 S51.6.1
- ・妻籠宿保存地区保存条例 S51.4.1

R4.6.6

妻籠宿案内人の会も役員改選がありました!

会長：松瀬康子

副会長：青木房江

幹事：野田 覚、原 修己

監事：伊藤伸三 (敬称略)

※妻籠宿案内人の会の活動報告は、次号に
予定しています。





和智埜神社 夏の例大祭と御神輿渡御



総代表 仙 名 功

祭りは伝統文化であり、氏子の皆様の心の拠り所でもあります。そんな大切なお祭りが新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止・自粛を余儀なくされ、和智埜神社の令和2年度の夏季例大祭は神事のみのお祭りとなりました。

神社庁では、文化の伝承が衰退してしまうと心配していましたが、令和3年度は近在の神社は前年同様に神事のみで自粛する中、和智埜神社は2年後3年後のことを考え、実行委員会と協議を重ね、今井総代表のもと、御仮宮への渡御を執り行うこととなり、氏子の皆様にも大変喜んでいただきました。また、実行委員会・御守役の皆の熱意に感動いたしました。お宮の役員も改めて伝統文化の継承を担う覚悟をいたしました。

本年度の夏祭りは、本来の神輿の巡行はできませんでしたが、本祭りに午前と午後に分けて巡行を行いました。

和智埜神社の祭儀は、春季祈願祭・夏季例大祭・秋季例祭・元旦祭（越年祭）です。例大祭である夏祭りの御神輿の歴史は古く、寛文十一年（1671）以来351年の伝統を持っています。現在の御神輿は文化七年（1810）に再興されて以来、二百余年強烈に揺さぶられ、檜で組まれた頑丈な御神輿でも修理が必要となり、昭和56年と平成30年に大修理をしました。

長い歴史を持つ文化財・村の宝であることを認識し、大切にして伝統と共に守っていかなければと思います。



下町 磯村 琢 弥

今回は口留め番所跡横から始まる、地藏沢の左側の道を紹介します。この道は、なんと読書発電所、つまり川西古道へ向かうのです。それでは、道を辿って上へと歩いて行きましょう。まずは地藏沢橋隣の丸太の橋を渡り地藏堂前を通過して生活道路へ出て、そこから水路沿いの車道に沿って上がり軽便道に出ます。この水路沿いの道は、法務局にある明治22年の和紙の地図では、80～90cm位の幅で赤い線で描かれていて、古くからあることがうかがえます。

軽便道から少し入った所で、与の洞から取り入れた水が鯉岩方面と地藏沢方面とに二股になっています。地図上ではこの二股の間に道が描かれていて上に向かうのですが、見当たりません。仕方がないので軽便道を城山方面に少し進むと、細い道が水路に向かっていて、そこから地図の道に戻ります。道の左側は石垣が組まれしっかりしています。地図上では、途中で左に直角に曲がって水路から離れ、次は右に曲がって大井水跡に当たった所で大井水跡に沿って与の洞を渡ることになっているのですが、最初の左に曲がる場所が見当たりません。いきなり一段高い、植林をしてある土地にぶつかり途絶えてしまいます。この土地に沿って進むと地主さんの歴代の墓に出てしまい、今回の道はもう辿ることができませんでした。

仕方がないので大井水跡を探しに奥へ入ると巨大な岩があり、上に倉科様が祀ってあります。さらに奥に入っていくと、先ほどの水路が与の洞から水を取り入れています。変です。大井水跡が見当たりません。そもそもこの水路の水は地図ではもっと上で取り入れられていて、大井水と直角に交わっています。水路に沿って戻ってみると、別の方向へ向かって昔の水路も存在していますが、土で埋まっています。この辺りで水路の向こう側に大井水跡がうっすらと見えます。ここで戻ってきた方向を振り返ると、こちらも今の取り入れ口より手前に、大井水跡らしきものが見えたので、これに沿って進むと与の洞に出ることができました。

今回は対岸から賽の神土塁へ登り渡島までを書きます。



（右…与の洞奥の石垣）
（上…倉科様が祀られている大岩）



〈水路奥の石垣〉



環境保全委員会作業に参加して

奥ジャパン株式会社妻籠支店 窪 美 靖

妻籠に来るまでは、オオハンゴンソウの存在はあ
るか、名前すら聞いたことがなかったように思いま
す。しかし、明治時代に観賞用として日本に持ち込ま
れたオオハンゴンソウが、在来植物を駆逐して生態
系に悪影響を及ぼす外来植物（特定外来生物）であ
ると知ってからは、ひまわりの花を小さくしたような
きれいな黄色い花に複雑な思いを抱くようになりました。オオハンゴンソウも人間の都合で連れてこら
れたアライグマ等と同じく置かれた環境で生き抜こ
うとしているだけなのですから。

そうは言っても、宿場内の建物だけでなく、周辺の
自然も含めた宿場景観の保存をしていく上で、オオ
ハンゴンソウの駆除はとても重要なことになります。
オオハンゴンソウは繁殖力が強く、種だけでなく、地
下茎でも増えていくため、根ごと掘り上げないと残っ
た根から新たな茎が伸びてきます。これには大変な
労力がかかりますので、今回の作業は花が咲く前に
根元から刈り取り、種を付けさせないようにして、繁
殖地をこれ以上拡大させないことを目指します。

当日はすでに梅雨明けしたかのような天気でした
ので、熱中症にならないよう、水分を取りながら、1時
間半程度で作業終了となりました。オオハンゴンソウ
の根絶を目指して、これからも作業を続けていきま
いです。



【木曽地域で多くみられる特定外来植物】

オオキンケイギク・オオハンゴンソウ・アレチ
ウリ、この3種が特に多く見られます。

その他外来植物では、セイトカアワダチソウ・
アラゲハンゴンソウ・タカサゴユリ・ヒメオドリ
コソウ・フランスギク等道路端や空き地などで
多く生育しています。どれもこれも一見愛らし
い。曲者です。

主な駆除方法としては、

刈り取り：分布域の拡大を防ぎます。

引き抜き：根絶を目指します。

妻籠を愛する会環境保全委員会では毎年駆
除作業を行っています。根気のいる気の長い作
業ですが続けるしかありません。

梅雨時から夏場の作業ですので、本当に大変
です。委員の方々、いつもありがとうございます。

愛する会が所有・管理する尾又の傾斜地も
草刈りが行われ綺麗になりました。



宿 場 暦

5月 6日：一石栃立場茶屋薪運び作業(4名)
 9日：理事会、撮影許可審議委員会
 17日：(株)キューブ撮影(～18日)、撮影許可審議委員会
 18日：木曽風景街道推進協議会役員会(広域・理事長)、妻籠地区地域振興協議会総会(理事長)
 20日：統制委員会、移動知事室、広報142号発行
 23日：一石草刈り作業(5名)、三役会
 24日：中京テレビ撮影
 27日：日本ナショナルトラスト協会理事会(理事長)
 30日：評議員会

6月 5日：(第42回南木曽町・妻籠健康マラソン大会：中止)
 6日：理事会、三役会
 9日：評議員会
 10日：妻籠宿案内人の会役員会・学習会
 11日：全国町並みゼミ新潟市大会(～12日・不参加)
 12日：南木曽町リニア中央新幹線対策協議会現地視察(理事長：下伊那)
 15日：木曽風景街道推進協議会総会(木曽町・2名)
 17日：日本ナショナルトラスト協会総会(理事長)
 19日：令和4年度第1回観光地点パラメータ調査
 20日：統制委員会
 21日：第3回史跡中山道保存活用計画策定委員会(理事長)、広報部会
 22日：男埴特別委員会、三役会
 25日：木曽三川と堀川上下流交流会(妻籠町並み交流センター・理事長)
 26日：オオハンゴンソウ除去作業(環境保全委員会・妻籠観協・愛友会：21名参加)
 27日：南木曽町リニア中央新幹線対策協議会(理事長・常務)
 28日：撮影許可審議委員会

7月 2日：アドボカシーにおける地域間交流イベント in 南木曽(理事長)
 5日：木曽地域文化遺産活性化協議会総会(妻籠町並み交流センター・理事長)、テレビ信州撮影
 20日：統制委員会
 23日：和智埴神社祭礼
 24日：//
 26日：県立入検査、名工土木城山整備作業

27日：広報部会
 28日：木曽谷狼煙あげ連絡会(木曽町・理事長)

統制委員会審議事項

5月20日
 ・住居除却(橋場：個人) 1件
 ・妻籠町並み交流センター外構工事・妻籠分館取壊し工事・妻籠町並み交流センター駐車場整備(教委) 1件
 ・建物改装工事(尾又：個人) 1件
 [その他]
 ・建物撤去、事務所及び倉庫新築(4月保留・再提出) 1件

6月20日
 ・土蔵修繕工事(上町：保存事業) 1件
 ・鉄塔の回線標識塗装塗替え、セフティーバーの取替(関電：妻籠地区) 1件
 ・群状択伐(関電：妻籠地区) 6件
 ・えんじゅの木枝払い(教委：妻籠橋) 1件
 ・水道管布設工事(町・リニア関連：押手～大高取～大妻籠) 1件
 ・鳥害対策用品取付(中電：寺下) 1件

7月20日
 ・樹木伐採(尾又集会所) 1件
 ・道路法面の立木伐採及び枝払い(建設業協会：橋場) 1件
 ・土蔵屋根修繕(上町：個人) 1件
 ・妻籠宿防災施設更新工事(教委：大井水) 1件
 ・妻籠郵便局模様替工事(フジシステムズ) 1件
 [その他]
 ・スナジ墓地支障木伐採 1件
 ・外壁修理工事(上町：工事延長再提出) 1件

【統制委員会からのお知らせ】

重伝建地区内で家屋の修繕等行うときには、事前に統制委員会への届出が必要となります。申請用紙は愛する会にあります。

また、補助金が出る場合もありますので、町教育委員会又は愛する会事務局にご相談ください。

景観保持のため、宿場内での路上駐車はやめましょう!

シジュウカラにもプライドあり!

一石栃立場茶屋管理人 渡 辺 千 俊

昨年、廃材で作った巣箱にシジュウカラが住み付き、二世達が巣立った。これに気を良くして、今年は、この古屋に新築二軒を加えることにした。

まず、背板がはがれて倒壊寸前の古屋を木からはずして解体修理。すすけてもろい杉板には釘もきかない。仕方なく縄で縛った。二つに割れて、反り返った屋根は細い釘を慎重に打って修復した。

新築巣箱は、ホームセンターで杉板を手に入れ、ネットで調べた通りの寸法で製作。管理人仲間が、「ちょっときれいすぎないか?」と言うので、墨汁を薄めて白木に塗ってみた。すると、木目も美しい、いかにも古民家風の真新しい巣箱が出来上がって、大満足。さっそく三本の木に分けて設置した。

ひと月遅れの桜の季節が過ぎ、一石栃に小鳥の繁殖の季節がやって来た。さっそく、シジュウカラの新婚さんが古屋に目を付けた。新築もあるのに古屋で良いのか? おいおい、壊れた屋根のすき間から出入りするなよ! 雨漏りするけど大丈夫なんか? 心配御無用とばかり、今年もちゃんと巣立って行った。

一方、新築巣箱には…全く入居者が現れず、空室のまま暑い夏を迎えてしまった。

ひなが巣立ち、静かになった古屋を見ながら、私は思った。『古くとも、快適でなくとも、修復した伝統家屋に住み、世代を継いでそこに暮らす。』この一石栃に生まれたシジュウカラの生き方は、まさに妻籠宿の住民スピリッツと同じではないか!



〈草刈り作業〉



〈茶屋のすぐ近くまでカモシカが来ます〉